

令和2年度事業報告

公益目的事業

I 国際理解の推進

1 施設の運営及び情報収集提供機能の拡充

(1) 国際交流プラザの運営

「国際交流プラザ」の運営について、県の委託を受けて、県民や在住外国人等をはじめ関係団体等に幅広く利用されるよう各種のサービスの提供を行った。

(2) 国際交流プラザのサービス機能の充実

ア ライブラリーの整備

海外渡航や留学情報、アジア・太平洋諸国をはじめとする世界各国の最新事情及び語学学習や異文化理解、交流の基礎となる鹿児島県の理解に役立つ図書等の収集・充実を図り閲覧に供するとともに、海外の新聞や雑誌等を定期的に購入し、閲覧に供した。

図 書	2, 0 2 8 冊
ビデオ・DVD	1 8 9 巻
外国語新聞	4 紙
外国語雑誌	4 紙

イ 情報提供サービスの推進

県民向け並びに在住外国人向け情報提供サービスの充実に努め、国際理解の増進を図った。

また、若者等向けに「ワーキングホリデーセミナー」を開催し、情報の提供と理解を図った。

開 催 日	令和2年8月30日(日)
場 所	かごしま県民交流センター
参加人数	15名

ウ 相談・支援体制の充実(外国人相談事業)

在住外国人等からの相談などに多言語で応じる「外国人総合相談窓口」を、令和元年10月に開設し、専任の相談員2名を配置して、在留資格や就労等に関する各種相談に対応した。併せて、県民の留学、国際交流に関する相談への対応や情報提供等を行った。

(3) インターネットによる情報提供機能の充実

当協会のホームページやフェイスブックを活用し、県民及び在住外国人にインターネットにより多種多様な情報を提供した。

2 広報出版活動の充実

(1) 日本語情報誌「DANRYU」の発行

県内の国際交流活動情報を盛り込んだ県民向けの日本語情報誌を発行した。

発行回数：年1回	発行部数：2,300部
----------	-------------

(2) 英文情報誌「South Wing」の発行

県内在住の外国人を対象に鹿児島の日常的に必要な情報を提供するため英文情報誌を発行した。

発行回数：年1回	発行部数：800部
----------	-----------

(3) 「国際交流ひろば」の発行

当協会及び県内国際交流・協力団体等の実施するイベント情報等の情報紙を発行した。

発行回数：毎月1回	発行部数：600部
-----------	-----------

3 国際理解事業の推進

(1) 外国語・文化講座等の開催

ア 「県国際交流員による文化講座」等の開催

県国際交流員による外国の文化紹介や異文化体験等を通して、県民の国際理解を促進するとともに、多文化共生の地域づくりへの関心を高めた。

また、県内各地に出向き、多くの県民が異文化体験できる機会の提供に努めた。

実施回数：2回	参加者：延べ47名
---------	-----------

イ 「在住外国人による公募型国際理解講座」の開催

在住外国人が実施する国際理解講座を公募し、これらの外国人による講座の開催を支援することを通して、在住外国人自らが本県における多文化共生の地域づくりに積極的に参画する機運の醸成を図った。

実施回数：4回	参加者：延べ118名
---------	------------

ウ 「ベトナム理解講座」の開催【新規】

県内に在住する外国人のうち、近年、急激にその数が増加しているベトナム人に対する地域住民や企業の理解を深めるため、ベトナム人講師による講座を実施し、多文化共生の地域づくりに積極的に参画する機運の醸成を図った。

実施回数：2回	参加者：延べ63名
---------	-----------

エ 「ベトナムを知るおしゃべり会」の開催【新規】

県内に在住する外国人のうち、近年、急激にその数が増加しているベトナム人の母国について、県民を対象に様々なテーマで楽しくお話をする講座を開催し、ベトナムに関する理解促進を図った。

実施回数：	3回	参加者：	延べ41名
-------	----	------	-------

オ 「児童・生徒向け国際理解講座」の開催

i 「国際理解ミニ講座」の開催

国際交流プラザを訪れる小中学生を対象に、協会職員による「世界の中のかごしま」をテーマとした講話や、国際交流員の出身国の文化紹介等を行う「来て、見て、知って！国際理解ミニ講座」を開催し、児童・生徒の海外への関心を高め、異文化理解を促進した。

実施回数：	1回	参加者：	2名
-------	----	------	----

ii 「英語絵本のよみかたり講座」の開催

幼児から小学校低学年までの児童とその保護者を対象に、県国際交流員による「英語絵本のよみかたり」講座を開催し、幼少期から英語に触れる機会を提供するとともに、子どもたちの英語への関心を高めた。

実施回数：	8回	参加者：	延べ96名（親子36組）
-------	----	------	--------------

カ 「一般向け国際理解講座」の開催

市町の国際交流協会、地域の自治会など国際交流に関心のある一般の方々を対象に、協会職員や県国際交流員が、当県の国際交流の現状等について説明を行う「鹿児島と世界を考える」国際理解講座を開催し、地域レベルでの国際交流に関する理解の促進を図った。

実施回数：	2回	参加者：	3名
-------	----	------	----

キ ランチタイムトーク（原則毎週1回）

i ランチタイム・イングリッシュ・クラブ

英語による外国文化の紹介や自由な意見交換を行うため、県国際交流員による「ランチタイム・イングリッシュ・クラブ」を開催した。

開催日：	毎週金曜日		
実施回数：	32回	参加者：	延べ398名

ii 韓国語ランチタイムトーク

韓国語による外国文化の紹介や自由な意見交換を行うため、県国際交流員による「韓国語ランチタイムトーク」を開催した。

開催日：	毎週水曜日		
実施回数：	38回	参加者：	延べ313名

※ 中国語ランチタイムトークは、県国際交流員が着任できず中止

(2) 国際理解プログラム事業の実施

i 「協力隊OBと留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～」事業の実施

青年海外協力隊や国際協力，発展途上国等に対する理解を深めるため，青年海外協力隊のOB/OGや留学生等を小・中学校に派遣する事業を，青年海外協力隊鹿児島県OB会，鹿児島県青年海外協力隊を支援する会及び協会で組織する実行委員会で実施した。

派遣学校	38校
派遣人数	延べ57名
参加者	2,399名

(3) 国際理解教材の整備・貸出し

国際理解，国際交流，国際協力等に資する地域の国際化を目的とした事業等の実施者に対して，民族衣装や国旗の貸出しを行うとともに，その整備・充実を図った。

民族衣装	5回（学校0，市町村1，各種団体等4）
国旗	2回（学校0，市町村0，各種団体等2）
地図	0回（学校0，市町村0，各種団体等0）

II 国際交流活動の展開

1 海外との相互交流の推進

(1) 「鹿児島・全羅北道文化交流事業」の実施【新規】

本県と交流のある韓国全羅北道との間で，互いの文化を体験する講座を実施し，相互理解を深めるもので，昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりリモートを使って全羅北道から参加した講師により，県内の参加者に韓国の伝統的な紙を使った工芸品作りの体験講座を実施した。

実施時期	令和2年11月1日（日）
参加人数	24名

(2) 留学関係情報の提供及び相談

世界主要国の留学制度，海外生活，海外事情，ワーキングホリデー等に関する書籍を整備し，情報を提供するとともに，相談に応じたり専門機関の紹介を行った。

相談件数	12件	※留学，ワーキングホリデーに関する相談
------	-----	---------------------

2 在住外国人との交流促進

(1) 国際交流活動の促進

市町村・企業・団体等が在住外国人との交流活動を行う場合、企画立案等の相談に応じるとともに、共催や後援による協力を行った。

後援件数	4件
------	----

(2) 「地域国際交流促進事業」の実施

市町村や国際交流団体等と連携し、県内各地で行われるイベント等に国際交流ブースを出展し、地域における在住外国人と一般県民との交流促進を図る事業。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、実施市町村がイベント等を中止した。

3 国際交流組織等との連携・支援の強化

(1) 民間団体等の国際交流・協力活動への助成

県内の民間団体が行う海外との文化・スポーツ・学術等の国際交流活動、県民の国際理解の推進を目的とする活動、地域レベルの国際交流・協力の推進を目的とする活動等に対し助成する事業。

*令和2年度は申請がなかった。

(2) 市町村や市町国際交流協会・国際交流団体とのネットワークの推進

i 意見交換会の開催

国際交流等に関する共通の課題や問題を抱える市町村等の職員を対象とした県主催の多文化共生推進会議（意見交換会）に参加し、問題解決のための方策の検討を行うとともにネットワークづくりを行った。

開催日	令和2年10月6日(火)
場所	かごしま県民交流センター
参加市町村等	18市町村 7団体

ii 「鹿児島県の国際交流・協力団体ダイレクトリー」の拡充

国際交流団体等のネットワークの一助とするため「鹿児島県の国際交流・協力団体ダイレクトリー」の掲載情報を随時更新するとともに、対象団体等の把握に努めた。

(3) 全国組織等との連携

i 全国組織等との連携

地域国際化協会連絡協議会をはじめ、財団法人自治体国際化協会など当協会と関係の深い全国組織等との連携を密にし、事務・事業の円滑な推進を図った。

ii 九州地区の協会間の連携

九州・沖縄地区の地域国際化協会で組織する連絡協議会の総会及び各種会議・研修等にリモート等を利用して参加し、相互の情報交換や連携の強化を図った。

4 国際交流ボランティア制度の拡充

各種ボランティア登録者の拡大を図るとともに、登録者の充実した活動ができるよう支援した。

なお、各団体の海外との交流事業が激減し、語学ボランティア等の要請がなかった。

登録者の状況	語学ボランティア登録	57名
	ホストファミリーボランティア登録	20家庭

5 旅券発給業務補助を通じた海外交流等の環境づくり

県の委託を受けて、かごしま県民交流センター内に設置されているパスポート窓口及び北薩地域振興局において、旅券の申請受付・作成・交付の業務を行った。また、県民サービスの一環として、旅券用写真撮影・販売業務等を行った。

項目	内容	備考
旅券交付件数	3,061件	県全体

Ⅲ 多文化共生社会の推進

1 在住外国人と日本人の相互理解の促進

(1) 「在住外国人のための日本語・日本理解講座」の開催

県内の在住外国人を対象に、日本語及び地域社会で生活する上で必要な生活情報等についての研修を行い、生活の充実とコミュニケーションの円滑化を図った。

クラス	開催日	講座回数	受講者数(人数/回)
午前の部	毎週水曜日(5月～2月)	30回	22名
夜間の部	毎週木曜日(5月～2月)	30回	18名

計 16か国の方が受講

(2) 日本語サロン「おしゃべりひろば」の開催

日本語の日常会話が可能な在住外国人を対象に、フリートーキングを行い、在住外国人同士のネットワークの形成や日本語会話の上達が図られた。

なお、年度後半は、新型コロナウイルス感染防止のため、リモートにより実施した。

実施回数	参加者数	出身国数
15回	延べ69名	11か国・地域

(3) 「多文化共生地域づくり事業」の実施

i 災害時における外国人支援講座「災害時における外国人への情報伝達訓練」

災害時における外国人への対応が必要となる市町村や協会職員等を対象に、災害時に外国人が抱える課題と対応、災害時の外国人被災者支援活動及び、特に避難所等での多言語による情報伝達に即応できるよう、災害に特化した「やさしい日本語」のワークショップを実施した。

なお、講師は県外からリモートで講座を実施した。

開催日	令和3年2月27日(土)
場所	かごしま県民交流センター
参加人数	29名
内容	・講話「災害時に情報を伝える」 ・演習「やさしい日本語」情報伝達訓練

ii 多文化共生社会づくり研修会

日頃から外国人と接する機会が多い行政機関や国際交流協会等の職員を対象に、多文化共生の基本的な考え方や共通するコミュニケーション手段としての「やさしい日本語」についての理解を深める研修会を実施した。

開催日	令和2年10月6日(火)
場所	かごしま県民交流センター
参加人数	30名
内容	・講演「やさしい日本語理解講座」

(4) 相談・支援体制の充実(外国人等相談事業)

在住外国人等からの相談などに多言語で応じる「外国人総合相談窓口」を元年10月に開設し、専任の相談員2名を配置して、在留資格や就労、新型コロナウイルス感染症等に関する各種相談に対応した。

併せて、県民の留学、国際交流に関する相談への対応や情報提供等を行った。

相談件数	497件 (うち外国人総合相談窓口での件数 446件)
------	-----------------------------

2 異文化交流の推進

(1) 「外国人による日本語スピーチコンテスト」の開催

国籍や文化の違いを越えた相互理解及び国際交流を深めるため、各種国際交流団体と連携して県内在住外国人によるスピーチコンテストを、新型コロナウイルス感染予防のため、会場の入場者数を制限して実施した。(来場者数：131人)

区分	開催日	出場者	出場者出身国・地域
予選	令和3年1月16日(土)	17名 (7か国・地域)	ネパール, ベトナム, フィリピン, アメリカ, ミャンマー, モンゴル, 中国
本選	令和3年1月30日(土)	10名 (5か国)	ネパール(5), ベトナム(2), フィリピン(1), アメリカ(1), 中国(1)

(2) 「県国際交流員による文化講座」等の開催(再掲)

(3) 「在住外国人による公募型国際理解講座」の開催(再掲)

IV 国際協力の推進

1 留学生への支援

(1) 研究活動費の助成

一定の条件を満たす留学生の学会等への出席などの研究活動を支援するため、旅費等の研究活動費への助成を行う事業。

*令和2年度は留学生からの申請がなかった。

(2) 留学生の交流活動への支援

東文子・外国人留生活動等支援事業会計を活用し、留学生会等が主催する国際交流・理解事業等に要する経費の助成等を行う事業。

*令和2年度は留学生会等からの申請がなかった。

(3) 留学生支援資金貸付制度の運営

留学生が、生活費、住宅費、医療費、学費等で一時的・臨時的に多額の出費を必要とする場合に、無利息での資金の貸付を行った。

件数：	2件	貸付額：	200千円
-----	----	------	-------

(4) 各大学等留学生担当者意見交換会の開催

留学生に関する情報交換や支援のあり方等について、各大学等留学生担当者との意見交換会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により会議開催は見送り、各大学等から徴した資料等を関係機関に配付し、情報共有を図った。

2 国際協力に対する理解の促進

(1) 「青少年国際協力体験事業」の実施

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会及び青年海外協力隊鹿児島県OB会と連携し、県内の中・高校生にアジアにおける国際協力の現場を体験させる事業を市町村や企業・団体の協力を得ながら実施する事業で、ラオスへの派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、団員の派遣を中止した。

なお、今回の派遣に備え、これまでに派遣された団員による「わたしにとっての体験事業」と題した座談会や県内中・高校に対するアンケート調査等を行いニーズの把握に努めた。

3 国際協力機関等との連携

(1) 独立行政法人国際協力機構との連携

独立行政法人国際協力機構との連携により、協会内に国際協力推進員を配置し、国際協力等に関する情報提供や相談等に応じた。

(2) 在外県人会の支援

i 郷土情報の提供

在外県人会並びに県出身者に対して、グラフかごしまや県政かわら版等を定期的に送付し、郷土情報の提供を行うとともに、鹿児島県海外移住家族会と連携して、南米の4県人会に対して新型コロナウイルス対策のためのマスク送付等の支援を行った。

ii 活動の支援

移住者の援護指導、消息不明者の調査、移住者の実態調査、県人子弟の育成・指導、母県との交流などの実施に関して在外県人会と業務委託契約を締結し、その活動を支援した。

委託先	ブラジル, アルゼンチン, ペルー, パラグアイ
-----	--------------------------

収益事業

県から委託を受けている旅券発給業務補助に付随して、旅券交付申請者の利便性を考慮し、次の事業を行った。

- 1 旅券発給に係る収入印紙・収入証紙の販売協力
- 2 旅券用写真の撮影・販売

※ 一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。